

生駒市鹿ノ台地区における
空き家予防対策に関するアンケート調査
報告書

2023年1月

公益社団法人都市住宅学会 都市住宅研究センター
アンケート調査事務局

1. 調査の目的

全国的に空き家問題が深刻化するなか、「空家等対策の推進に関する特別措置法」が2015年5月に全面施行されました。使用されずに放置され管理不全となった空き家などは、良好な街並みや景観、防災、防犯、地域のまちづくりに与える影響が懸念されます。

生駒市におきましても「生駒市空家等対策計画」を策定し、空き家等の発生予防と適切な管理、利活用と流通促進、管理不全な空き家等の解消など総合的な対策が推進されています。今後は、少子高齢化の進展とともに空き家の増加が本格化すると予想され、その発生を未然に防ぐための予防対策が重要な課題になると考えられます。

この調査は、関西有数の戸建住宅団地を有する生駒市の鹿ノ台地区にお住まいの方々を対象に、住宅の維持管理状況や、定住意向、相続や継承などの検討状況をお聞きすることにより、将来的な空き家の発生を未然に防ぐ方策を検討することを目的として実施したものです。

2. 調査の方法

この調査は、以下の方法により実施しました。

(1) 実施方法

- ・配布方法：日本郵政の配達地域指定郵便物（タウンメール）による鹿ノ台地区の全戸郵送
- ・配布対象：鹿ノ台北1～3丁目、鹿ノ台西1～3丁目、鹿ノ台東1～3丁目、鹿ノ台南1～2丁目において、生駒郵便局に登録されている2,743戸
- ・回収方法：[紙媒体] 同封した返信用封筒に回答調査票を封入・ポスト投函
[QRコード入力] 同封したQRコードをスマホ等で読み取り入力回答

(2) 実施時期

- ・2022年10月21日（金）～11月30日（水）
- ・投函期限の11月7日（月）を過ぎて回収票が到着した11月末まで期限を延長

(3) 回収数

- ・郵送回収：718票（合計に対する比率：81.0%）
- ・QRコード回収：169票（合計に対する比率：19.0%）
- ・合計：887票
- ・回収率：887票÷2,743戸＝32.3%

(4) 設問項目

- ・本調査における設問項目は、末尾の「調査票」を参照

(5) 調査結果における留意点

- ・各設問の集計結果における数値は、「無回答」は除いて集計
- ・比率はすべて百分率で表し、小数点以下第1位を四捨五入して算出しており、百分率の合計が100%にならないことがある

(6) 調査・研究体制

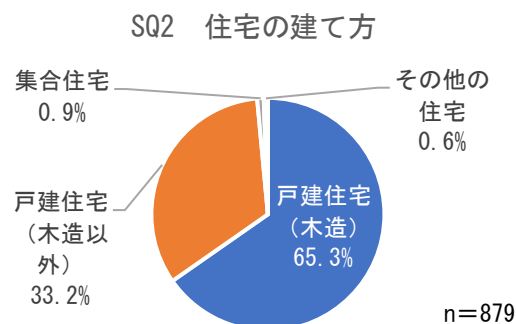
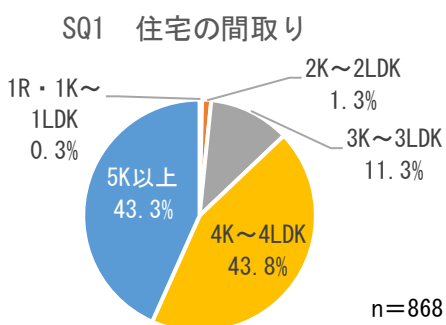
- ・調査事務局：公益社団法人都市住宅学会 都市住宅研究センター（担当：上村要司）
- ・研究体制：日本学術振興会科研費「人口減少期の大都市地域における空き家予防対策に資する地理学的研究」（研究代表者：上村要司）

3. 調査結果

(1) 現状の住まいについて

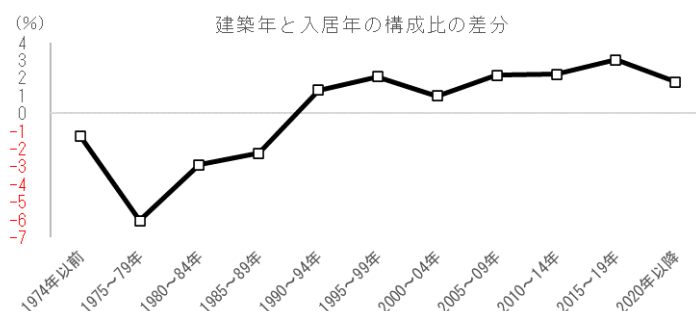
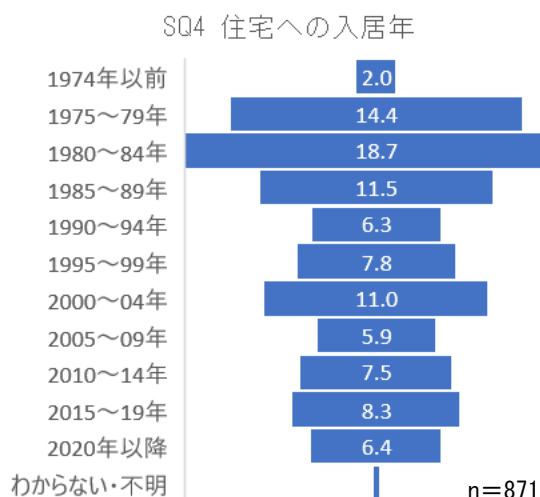
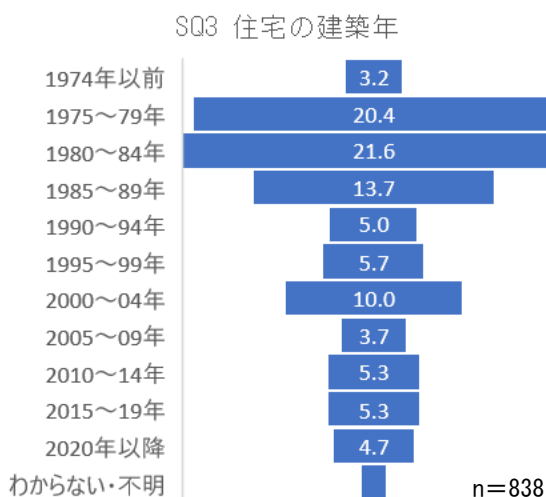
①住宅の間取り・建て方

- ・回答者が居住する住宅の間取りは4部屋タイプが43.8%、5部屋以上は43.3%と、双方合わせて全体の9割近くを占めました。
- ・建て方は木造戸建が65.3%、木造以外の戸建が33.2%と、双方合わせてほぼ全数を占めました。



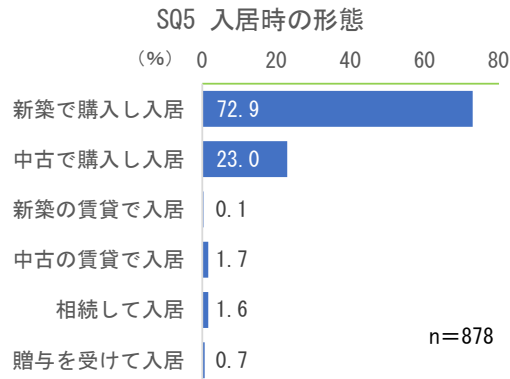
②住宅の建築年・入居年

- ・回答者が居住する住宅の建築年と入居年は、70年代後半から80年代に集中しており、鹿ノ台団地開発当初からの居住者が多くなっています。
- ・建築年と入居年の構成比を比較すると、80年代以前の入居者の比率が相対的に低く、経年住宅における住み替えがやや進んでいることがわかります。



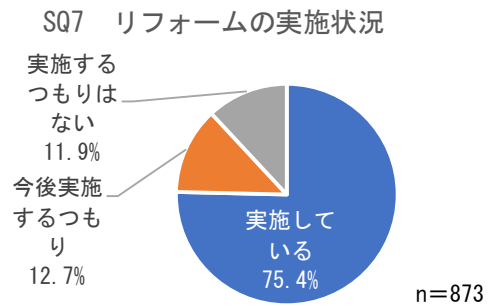
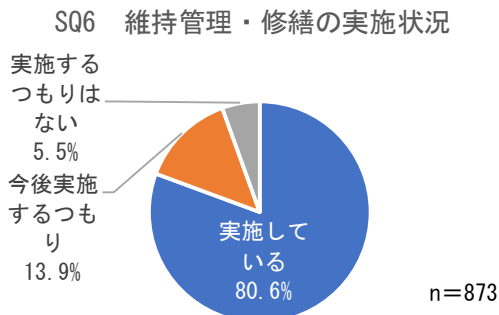
③入居時の形態

- ・「新築で購入し入居」した回答者の比率が7割以上を占め最も高く、団地の開発とともに整備された新築住宅の購入者が多くなっています。
- ・「中古で購入・入居」した比率は2割強と新築入居に次いでおり、双方合わせて全体の約96%と持家居住者がほとんどを占めます。「相続」や「贈与」での入居は、現状ではごくわずかに留まります。



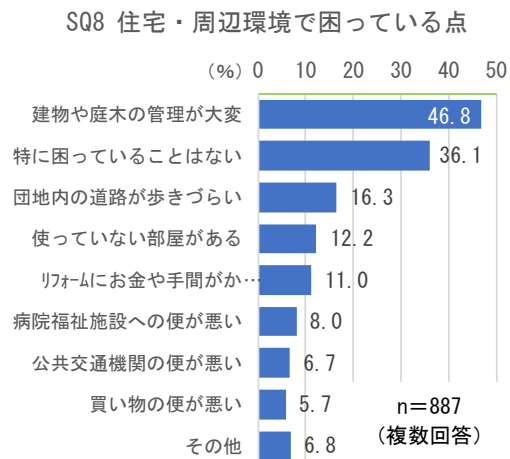
④住宅の維持管理やリフォームの実施状況

- ・定期的な維持管理や修繕を実施している回答は約8割、リフォームの実施は約75%を占め、住宅のメンテナンス意識は高いことがわかります。
- ・リフォームの対象箇所は、風呂・台所・トイレなどの水回りや外装・屋根の修繕が中心ですが、建物全体や断熱・耐震改修などの回答も一部で見受けられました。



⑤住宅や周辺環境で困っている点

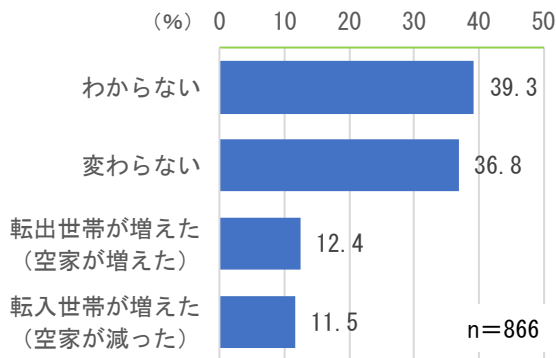
- ・困っている点は「建物や庭木の管理」が最も多く、「団地内の道路が歩きづらい」がこれに次いでいます。



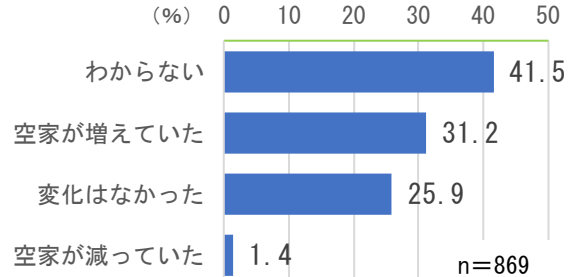
⑥コロナ禍前後の団地内の転出入・空き家の状況

- ・コロナ禍（2020年）以降の団地内での転出入については、「わからない」を除くと「変わらない」が最も多く、「転出世帯が増えた」と「転入世帯が増えた」が1割強を占めます。
- ・コロナ禍以前（2015～2019年頃）の団地内の空き家については、「わからない」を除くと「増えていた」が最も多く、「変化はなかった」がこれに次いでいます。

SQ9 コロナ禍以降で転出入が増えたか



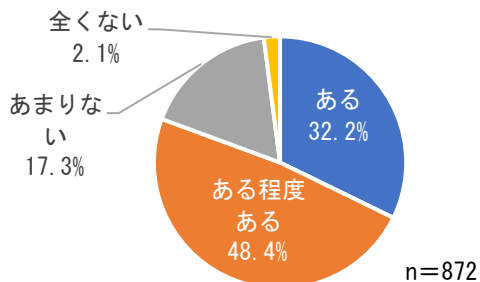
SQ10 コロナ禍前の空き家の状況



⑦空き家の発生に対する関心

- ・近所で空き家が生じることに対する関心は、「ある」と「ある程度ある」を合わせて全体の約8割を占め、空き家に対する住民の関心が高いことを示しています。

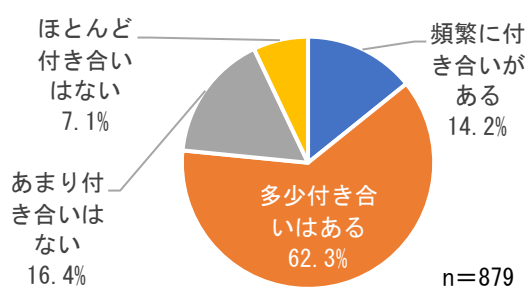
SQ11 空き家発生への関心



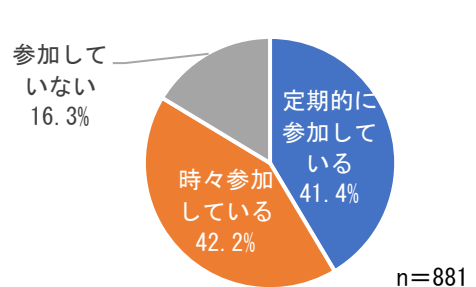
⑧近所付き合いや地域活動への参加状況

- ・近所付き合いについては、「頻繁にある」と「多少ある」を合わせて全体の4分の3以上を占めています。
- ・地域活動への参加についても、「定期的に参加」と「時々参加」合わせて全体の8割以上を占め、近所付き合いと合わせて鹿ノ台団地におけるコミュニティの高さがうかがえます。

SQ12 近所との付き合い頻度



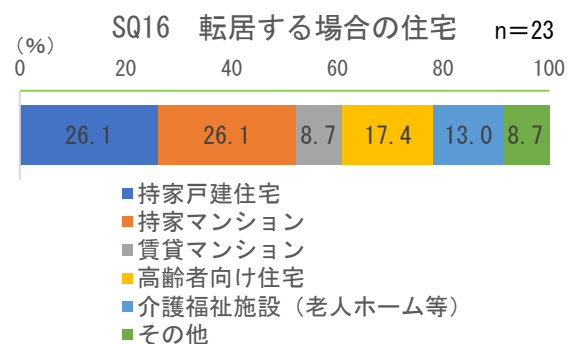
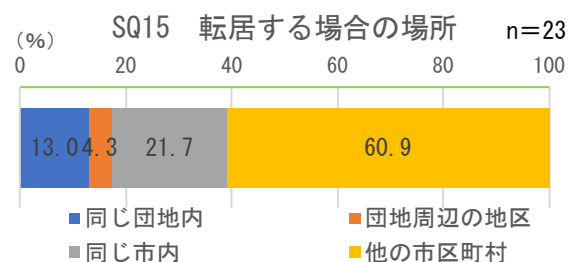
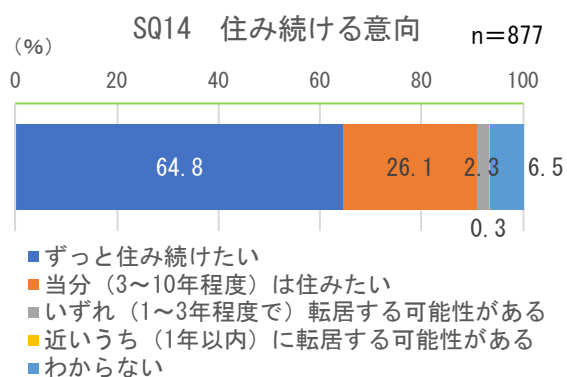
SQ13 地域活動への参加頻度



(2) 住まいに対する今後の意向

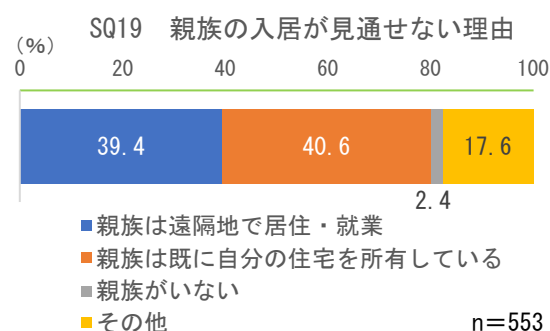
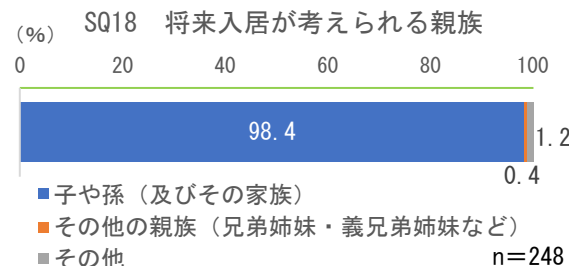
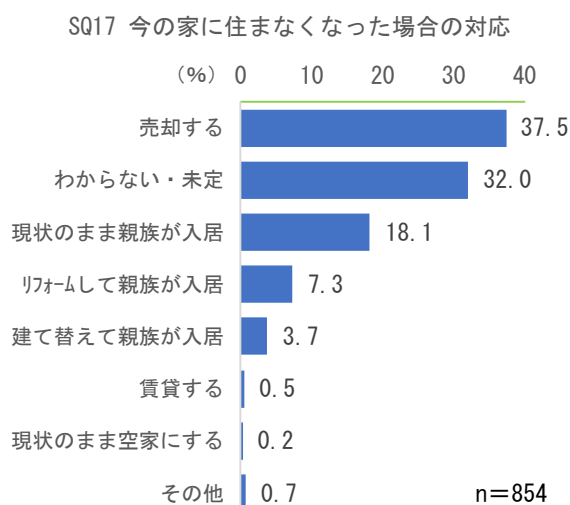
① 継続居住意向

- ・「ずっと住み続けたい」と「当分は住みたい」合わせて全体の約9割を占め、回答者の継続居住意向は高いことがわかります。
- ・数は少ないものの「いずれ転居」と「近いうちに転居」の回答者が転居先として挙げたのは「他の市区町村」が約6割を占め、一部で市外への転出の可能性も指摘されました。
- ・また、転居する場合の住宅形態は、持家戸建と持家マンションを合わせて過半数を占め、高齢者向け住宅と介護福祉施設は合わせて約3割を占めました。



② 将来自身が住まなくなった場合の対応

- ・将来自身が住まなくなった場合の今の住宅の対応については、「売却」が最も多く、「わからない・未定」に次いで「現状のまま親族が入居」が2割弱を占めました。
- ・将来入居が考えられる親族は「子や孫」がほとんどを占め、親族の入居が見通せない理由としては「遠隔地で居住・就業」と「自分の住宅を所有」が約4割ずつを占めています。

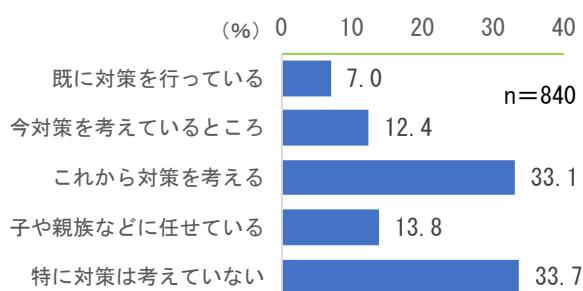


(3) 今の住まいに対する将来に向けた対策等

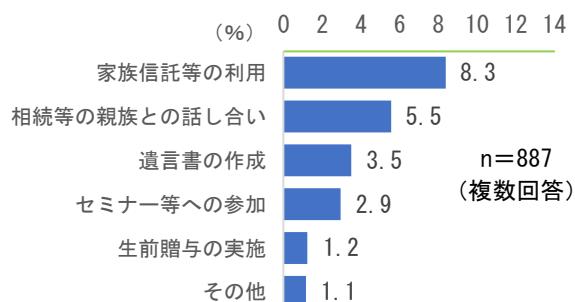
①家の相続や継承など将来に向けた対策

- ・将来に向けた対策としては、「これから考える」と「特に考えていない」がそれぞれ3割強を占め、対策の検討を喫緊の課題として捉えていない様子がうかがえます。
- ・対策の内容としては、「家族信託等の利用」や「親族との話し合い」「遺言書の作成」などが多くっており、相対的に家族信託等への関心が高いことが示されています。
- ・将来に向けた不安としては最も多い「特に不安はない」以外で、「売却や賃貸ができるかわからない」や「相続等の相談先がわからない」「相続税額等がわからない」「相続等の仕組みがわからない」が多く、住宅の流通や相続に対する不安の大きさがわかります。

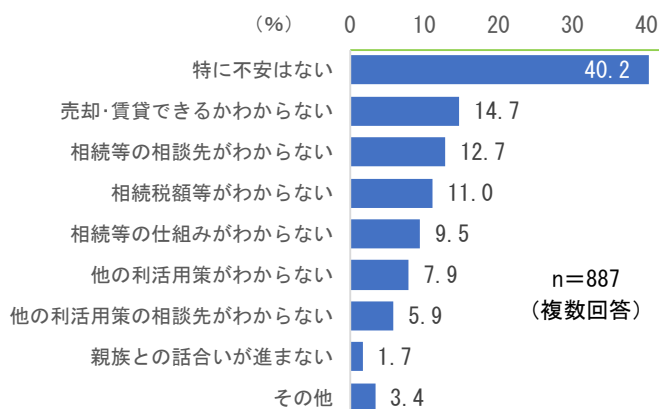
SQ20 将来に向けた対策の検討状況



SQ21 将来に向けた対策の内容



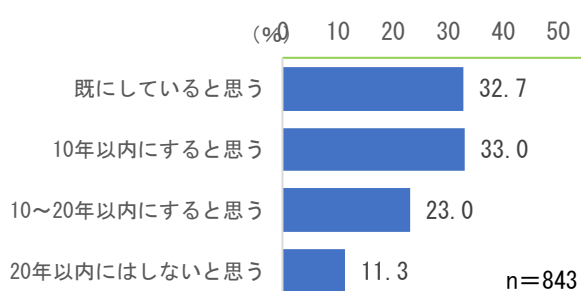
SQ22 将来への対策に関する不安



②将来、近所で空き家は問題化すると思うか

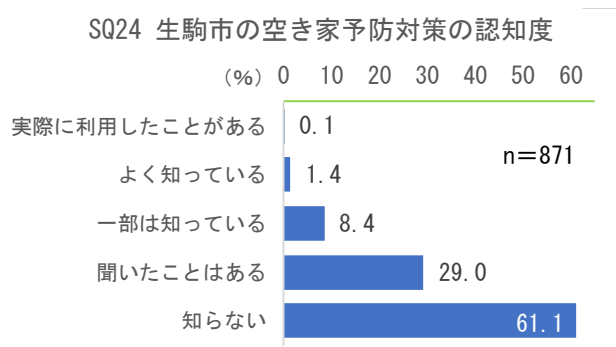
- ・近所における空き家の問題に対する認識としては、「既に問題化している」と「10年以内に問題化する」が3割以上を占めています。このように問題意識は高いものの、上記の将来に向けた対策状況との乖離をいかに解消するかが今後の課題と言えます。

SQ23 近所で空き家が問題化するか



③生駒市の空き家予防対策に対する認知度

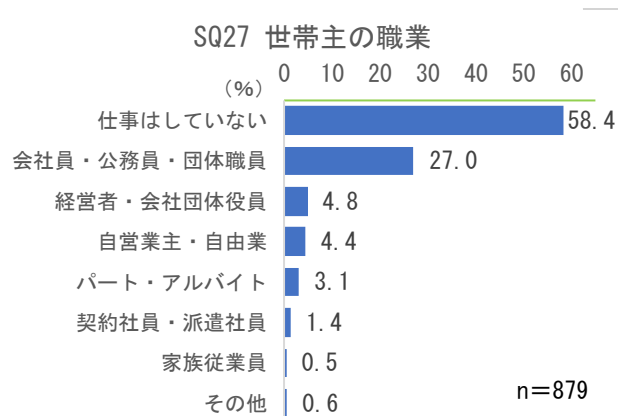
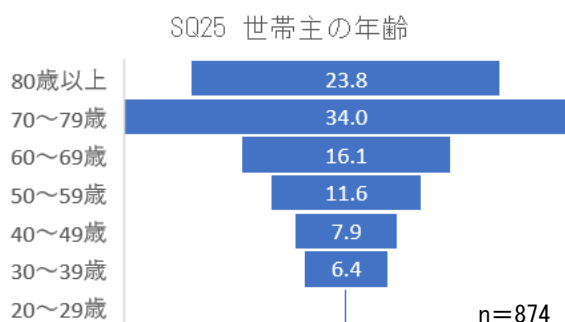
- ・市の空き家予防対策の内容については「知らない」が6割以上を占め、現状の各種施策に関するより積極的な啓発活動が求められます。



(4) 回答者の属性

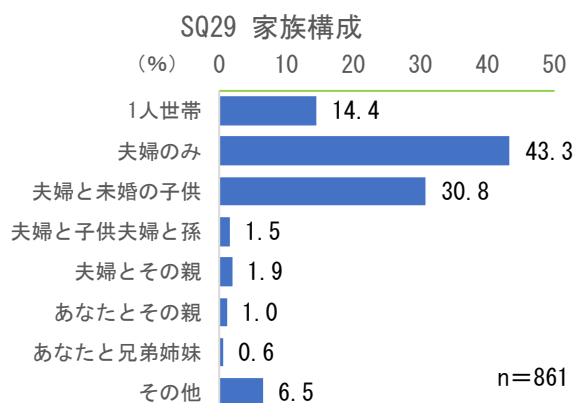
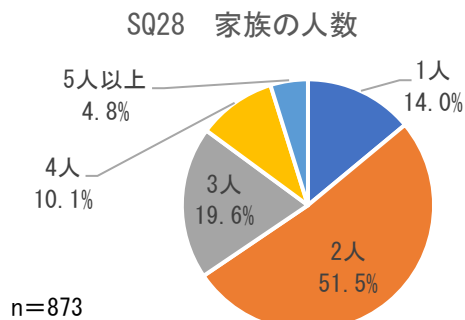
①世帯主の年齢・性別・職業

- ・回答者の世帯主の年齢層は70歳代が3割以上と最も多く、80歳以上を合わせて全体の6割近くを占め、男性は8割以上を占めました。
- ・世帯主の職業は「仕事をしていない」が6割近くに上り、会社員等が3割弱を占めました。



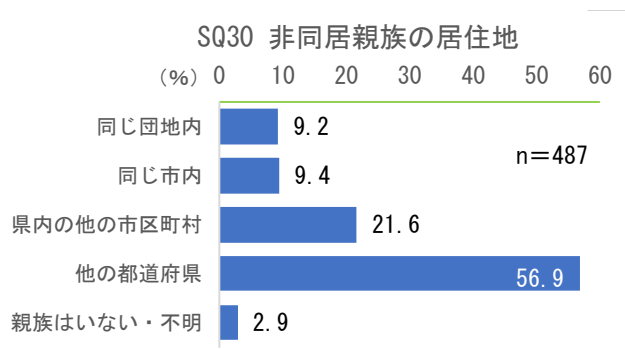
②家族人数・家族構成

- ・家族の人数は2人が過半数に上り、3人が2割弱を占めました。
- ・家族構成は夫婦のみが4割以上、夫婦と未婚の子供が約3割を占めました。
- ・世帯主の年齢や職業と合わせ見ると、高齢夫婦のみ世帯や高齢単身者が回答者の多くを占めているとみられます。



③同居していない親族の所在地

- ・同居していない親族（最も近くに住んでいる子・孫など）の居住地は、「他の都道府県」が過半数を占めて最も多く、P5で示した親族の入居が見通せない理由と合わせ見ると、将来親族を呼び寄せて今の住宅を継承させることは困難な様子もうかがえます。



(5) 自由回答（一部抜粋／空き家に関する問題・対策等についての要約意見）

■当該地区に対する現状認識

- ・鹿の台は高齢者が多く 1 人暮らしも多い。民生委員のなり手も少なく若い世代の自治会離れもあり、他者との関わりが減っている。今後、孤独死などで空家も一気に増えるのでは。相続がうまくできておらず、持ち主不明の空家は扱いに困り、動物が住み着いたり不法投棄や防犯面などが心配。
- ・鹿ノ台団地は古く地価が低いので、中古住宅の相続や売却は意外に多い。バスが減便し 1 日 6 本から 4 本に、土日は 3 本に。
- ・鹿ノ台東は高齢化が進んでいますが、近くに駅ができ高齢者が施設に移り空家になっても、時間を置かず若い人が購入や建て替えで入居している。自治連合会も若い人を勧誘する方策を打っており、良い循環が生まれつつあるように思います。
- ・比較的地価が安定しインフラに恵まれているため、子育て世代の転入が多いように思う。
- ・鹿ノ台は古家が新築に建て替えられるのをよく見かけるので、世代交代の途中だと思えます。街灯が少なく暗くて治安の問題があるので考えてもらいたい。
- ・地域の魅力を向上させて若い世代に選ばれる地域にすることがなによりも大切だと思います。
- ・若い世帯が住みたい街にして行く必要があると思います。自治会も高齢者だけでなく、子育て世代が主役の活動も行って欲しいと思っています。
- ・公共場所の美化や清掃は可能な限り住人自身で行う。できない部分は住人で分担し、環境整備を続ければ新たな転入者も生まれ、空き家問題の拡大も避けられると期待する。

■庭木の手入れ等について

- ・庭木が繁茂し、防犯上や景観も損なわれ安全でない。所有者や自治体への働きかけをお願いします。
- ・雑草や樹木が繁って景観を損ねるし害虫も増える。隣家も迷惑だと思う。
- ・空き家が管理されておらず、雑草や樹木の枝が隣や道路にまでおよび、通行や生活に支障をきたしている。雑草が茂ることで蚊や蜂などが住み付き危ない。
- ・外部からの侵入が怖いので、庭の雑草取りは市が定期的を実施して欲しい。
- ・空家になり草が伸び放題になった時点で、自治会か市役所から持ち主やその家族あてに草刈りをするように通知できないでしょうか。

■空き家対策の具体例の提案

- ・団地の特徴や良さを整理し、不動産会社や SNS 等を通じた PR を行政が後押しする仕組みづくりや、シェアハウス、ワーキングハウスなど共同住宅の推進を。
- ・テレワークやコミュニティー、リカレント教育、趣味、子どもの居場所、図書室、駐車スペース、ホームパーティ、スポーツなど、自宅以外にスペースが欲しい人は多いと思います。
- ・高齢者と若者が暮らすシェアハウス、高齢者同士のシェアハウス、リモートオフィス、フリースクール等の実現ができれば嬉しい。

■住宅流通・リフォーム等への意見

- ・リフォームや住宅流通の推進を。最近の住宅は60年～100年くらい維持できると思う。古い空家の放置は迷惑。ひどい場合は周辺住民が訴えることができる制度づくりを。
- ・世代交代が上手く行かなければ、高齢化が進み自宅で生活を営むことができなくなり、空き家が増える。住宅地の若返りや、様々な世代が住めるように考えていく必要がある。
- ・空き家をURで賃貸物件にすることや、学生同士のシェアもOKにすれば、利用者が増えそう。
- ・入居者が決まらない場合は更地にする。古民家カフェ等に再生してほしい。
- ・子供が県外に移り住む場合、空家になる前に早めの売却や転居の検討が必要。新築よりリフォームを推進する。
- ・近くの大学院大学で外国の方が退去しなければいけない場合、付近で家を探すのが大変と聞く。高学歴で身元が信頼できるなら、空家を賃貸したらよいと思う。
- ・高齢単身者が多く今後空家が増えていくと思うが、売りに出されても土地や家が広すぎて価格も高額になり、若い人がなかなか買えない。
- ・以前、住民投票で否決された土地の分割を認めてほしい。
- ・民事信託（家族信託）を普及させると売却もしやすくなり、所有者の介護や医療用に使うこともできる。成年後見制度は、自宅の売却は裁判所の許可も必要となるので信託が望ましい。

■税制に関する要望

- ・住む事を条件に相続税や固定資産税の減免措置があれば、次の世代も住みやすくなると思う。
- ・相続の範囲を三等親までとし、相続の期限を決め、公権力で撤去しやすくする。
- ・更地にしても固定資産税に影響がない、あるいは更地にしたほうが税金が安いといった法整備がないと、空家のまま放置されるので治安面や台風などで近隣に被害が及ぶ可能性がある。
- ・法律を改正し、一定期間空家になっていれば税率を大幅に引き上げる、あるいは行政が一方的に撤収処分して公の収入とする。
- ・持ち主不明の空家は国が接收する（固定資産税を払わなくなった時）。
- ・賃貸化が進むよう、貸主や借主に市民税などの軽減対策を実施。
- ・子や孫への売買の税制優遇をすべき。

■行政に対する要望

- ・住宅を含め相続について信頼できる相談窓口があるとありがたい。
- ・隣に親が住んでいた家があるが、有効利用がないか相談できる場所があればありがたい。
- ・生駒市がホームページで施策を示しているが、積極的に活動すべきと思う（活動が乏しい）。
- ・市で域内の空家状況が見えるように公開してほしい。データ化、図解などの見える化を。
- ・鹿ノ台には何年も空家になっているところがあり、防犯、景観にも好ましくない。事情があると思うが、市や県が相談に乗るのはどうか。
- ・市が地域整備に力を入れるべき。子供や孫が住みたくなる街づくりが必要。交通の便は悪くないが、団地内道路の整備を全くしていない。
- ・自治体が今回のようなアンケートを取りまとめて、転出の際、問題発生の防止に役立てていくような対策が必要。

- ・行政が率先して空き家の賃貸募集をしては。鹿ノ台は住環境が抜群であり、学校は幼稚園、保育所、小中学校とそろっているのも、子育て世帯の入居が望ましいと思います。
- ・生駒市は坂が多いので電動アシスト自転車や車が必要。年をとって免許を返納すると困る。電動アシスト自転車の購入補助金や、バス便をこれ以上減らさないよう奈良交通に補助金を。
- ・公共機関で空家の賃貸化を推進し、自治体が空家の無償提供を行う制度を作る。
- ・空家は市で引き受け、市営住宅として再利用できないか。この場合、所有者は市に対し無償で引き渡す（寄付する）。
- ・相続不動産が不要なら所在する市町村が、面倒な手続きなしに購入するシステムを国が法制化する。市は購入後家屋を解体し更地で売却するか、リフォームし売却するかを決定する。解体費用がネックになるので、空家予防対策費を地方創生予算等から捻出し、相続者の解体費の免除か、負担軽減できるよう補助金を入れて売却しやすくできないか。空家予防対策を考えない相続者には、売却期限や管理責任を厳しくしない限り、この問題は解決しないと思います。

(6) クロス集計結果

①近所での空き家の問題化の時期に関する意識（世帯・住宅属性別）

- ・年齢や性別で空き家の問題化の時期の認識に明確な差はみられませんが、単身・夫婦のみ世帯に比べて夫婦と子世帯では、既に問題化しているとの認識が高くなっています。
- ・近所付き合いが頻繁で地域活動に参加する回答者や、住宅・周辺環境に困り事を抱えている回答者は、10年以内の空き家の問題化を強く意識する傾向にあります。
- ・一方、定期的な維持修繕やリフォームを行っている回答者は、直近の空き家の問題化をあまり意識していない傾向がみられます。

			将来、近所での空き家の問題化（SQ23）				回答数
			既にして いる	10年以内 にする	10～20年 以内にす る	20年以内 にはしな い	
世帯属性	世帯主年齢	20～29歳	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	2
		30～39歳	38.2%	21.8%	25.5%	14.5%	55
		40～49歳	46.3%	29.9%	16.4%	7.5%	67
		50～59歳	30.3%	25.3%	23.2%	21.2%	99
		60～69歳	35.7%	35.0%	17.9%	11.4%	140
		70～79歳	30.6%	35.4%	26.4%	7.6%	288
		80歳以上	28.9%	35.8%	23.2%	12.1%	190
	世帯主性別	男性	33.8%	32.2%	22.5%	11.5%	707
		女性	28.2%	35.9%	25.2%	10.7%	131
	世帯構成	単身	30.2%	29.3%	25.9%	14.7%	116
		夫婦	29.6%	35.6%	24.4%	10.4%	365
		夫婦と子	38.9%	30.2%	19.4%	11.5%	252
		その他	28.0%	39.8%	21.5%	10.8%	93
	近所付き合い	頻繁にあり	35.3%	33.6%	22.7%	8.4%	119
		多少あり	32.6%	34.0%	22.7%	10.7%	524
		あまりなし	31.6%	25.7%	26.5%	16.2%	136
ほとんどなし		32.2%	35.6%	20.3%	11.9%	59	
地域活動	定期的に参加	33.1%	31.1%	23.1%	12.7%	347	
	時々参加	33.1%	34.5%	22.3%	10.2%	354	
	参加していない	31.2%	33.3%	24.6%	10.9%	138	
住宅特性	建築年	1979年以前	32.6%	27.8%	28.3%	11.2%	187
		1980年代	30.1%	42.3%	20.8%	6.8%	279
		1990年代	38.4%	24.4%	18.6%	18.6%	86
		2000年代	31.9%	30.1%	22.1%	15.9%	113
		2010年以降	37.4%	26.8%	22.8%	13.0%	123
	入居形態	新築で購入し入居	31.5%	32.8%	23.6%	12.0%	606
		中古で購入し入居	34.2%	33.7%	23.5%	8.7%	196
		その他	44.1%	35.3%	5.9%	14.7%	34
	定期的な維持 管理・修繕	実施している	31.9%	32.5%	23.7%	11.8%	670
		今後実施するつもり	36.8%	33.3%	21.4%	8.5%	117
実施するつもりなし		35.6%	37.8%	15.6%	11.1%	45	
リフォームの 実施	実施している	31.0%	34.7%	23.8%	10.5%	626	
	今後実施するつもり	35.5%	27.3%	20.9%	16.4%	110	
	実施するつもりなし	40.8%	29.6%	18.4%	11.2%	98	
住宅や周辺環境 の困り事	あり	34.0%	37.3%	20.3%	8.4%	926	
	特になし	28.4%	27.7%	28.0%	15.9%	296	
意識	定住意向	ずっと＋当分	31.5%	33.7%	23.5%	11.2%	756
		その他	43.0%	25.3%	19.0%	12.7%	79
	コロナ禍以降 団地内の転出入	転入増えた	33.3%	28.1%	22.9%	15.6%	96
		転出増えた	44.8%	37.1%	12.4%	5.7%	105
		変わらない	27.0%	33.7%	26.0%	13.3%	300
	コロナ禍以前 空き家の状況	空き家増えた	43.8%	31.9%	17.7%	6.5%	260
		空き家減った	36.4%	45.5%	9.1%	9.1%	11
		変化なし	22.4%	35.0%	24.8%	17.8%	214
	近所の空き家 発生への関心	ある＋ややある	35.4%	34.1%	20.7%	9.7%	680
あまりない＋ない		22.2%	25.5%	33.3%	19.0%	153	

※網掛けは平均より大きい比率であることを示す

②将来の住宅の予定および将来に向けた対策に関する意識（世帯・住宅属性別）

- ・自身が住まなくなった住宅について売却・賃貸等を考えている回答者は、世帯主が20～40歳代、男性、単身・夫婦のみ世帯、近所付き合いや地域活動に積極的でない、などの傾向があります。一方、近隣の空き家発生への認識がなく、定住意向があり、維持修繕やリフォームを行っている回答者は、親族の入居を見込む傾向がみられます。
- ・相続等の対策を行っている・考えている回答者は、世帯主が60歳代以上、女性、近所付き合いや地域活動に積極的で、建築年が古く維持修繕やリフォームを行っており、定住意向が高い、といった特徴があります。

			将来の住宅の予定 (SQ17)				将来に向けた対策 (SQ20)				
			親族が 入居	わから ない	その他 (売却・ 賃貸等)	回答数	行って/ 考えている	これから ／任せる	考えて いない	回答数	
世帯属性	世帯主年齢	20～29歳	50.0%	0.0%	50.0%	2	0.0%	0.0%	100.0%	2	
		30～39歳	28.8%	30.8%	40.4%	52	3.8%	36.5%	59.6%	52	
		40～49歳	24.6%	29.2%	46.2%	65	4.6%	38.5%	56.9%	65	
		50～59歳	27.4%	33.7%	38.9%	95	8.5%	42.6%	48.9%	94	
		60～69歳	25.9%	33.1%	41.0%	139	25.4%	38.4%	36.2%	138	
		70～79歳	27.2%	36.6%	36.2%	290	20.2%	53.2%	26.6%	282	
		80歳以上	34.8%	26.0%	39.2%	204	27.5%	52.5%	20.0%	200	
		世帯主性別	男性	29.3%	30.2%	40.5%	713	17.8%	45.2%	37.0%	703
		女性	28.1%	41.5%	30.4%	135	28.2%	54.2%	17.6%	131	
	世帯構成	単身	13.3%	40.0%	46.7%	120	22.7%	54.6%	22.7%	119	
		夫婦	20.5%	36.6%	42.9%	366	18.4%	49.7%	31.9%	364	
		夫婦と子	40.8%	24.3%	34.9%	255	14.7%	42.6%	42.6%	251	
		その他	48.9%	23.3%	27.8%	90	29.8%	40.5%	29.8%	84	
		近所付き合い	頻繁にあり	28.3%	35.0%	36.7%	120	24.2%	48.3%	27.5%	120
		多少あり	29.8%	33.9%	36.3%	534	19.7%	45.7%	34.6%	523	
		あまりなし	28.3%	26.1%	45.7%	138	14.0%	49.3%	36.8%	136	
		ほとんどなし	22.4%	24.1%	53.4%	58	17.2%	50.0%	32.8%	58	
	地域活動	定期的に参加	34.4%	30.7%	34.9%	358	20.5%	47.0%	32.5%	351	
		時々参加	25.3%	34.4%	40.3%	360	19.0%	47.9%	33.1%	353	
		参加していない	25.4%	28.4%	46.3%	134	17.2%	44.8%	38.1%	134	
	住宅特性	建築年	1979年以前	30.7%	26.6%	42.7%	192	22.3%	50.5%	27.1%	188
			1980年代	27.3%	34.0%	38.7%	282	20.9%	50.9%	28.2%	277
			1990年代	21.1%	43.3%	35.6%	90	19.1%	46.1%	34.8%	89
			2000年代	31.0%	28.3%	40.7%	113	17.3%	41.8%	40.9%	110
2010年以降			29.4%	31.7%	38.9%	126	11.1%	35.7%	53.2%	126	
入居形態			新築で購入し入居	29.7%	30.6%	39.7%	633	18.5%	49.6%	31.9%	621
		中古で購入し入居	26.7%	35.6%	37.6%	202	22.0%	39.0%	39.0%	200	
		その他	36.8%	36.8%	26.3%	19	21.1%	42.1%	36.8%	19	
定期的な維持 管理・修繕		実施している	30.2%	31.5%	38.2%	688	22.1%	46.4%	31.6%	675	
		今後実施するつもり	27.1%	34.7%	38.1%	118	9.3%	49.2%	41.5%	118	
		実施するつもりなし	18.6%	27.9%	53.5%	43	7.1%	50.0%	42.9%	42	
リフォームの 実施		実施している	29.4%	31.9%	38.8%	640	21.9%	49.1%	28.9%	629	
		今後実施するつもり	33.3%	26.1%	40.5%	111	9.1%	49.1%	41.8%	110	
		実施するつもりなし	22.4%	38.8%	38.8%	98	14.6%	29.2%	56.3%	96	
住宅や周辺環境 の困り事		あり	22.3%	36.7%	41.0%	922	18.2%	53.6%	28.2%	912	
		特になし	36.7%	28.3%	35.0%	311	21.6%	40.7%	37.7%	305	
意識	定住意向	ずっと＋当分	30.2%	32.0%	37.7%	777	19.9%	46.3%	33.8%	763	
		その他	14.1%	32.4%	53.5%	71	12.7%	54.9%	32.4%	71	
	コロナ禍以降 団地内の転出入	転入増えた	28.0%	25.8%	46.2%	93	19.6%	44.6%	35.9%	92	
		転出増えた	22.9%	35.2%	41.9%	105	22.3%	57.3%	20.4%	103	
		変わらない	37.3%	25.2%	37.6%	314	21.4%	45.6%	33.0%	309	
	コロナ禍以前 空き家の状況	空き家増えた	24.9%	32.6%	42.5%	261	25.3%	46.6%	28.1%	253	
		空き家減った	16.7%	41.7%	41.7%	12	0.0%	41.7%	58.3%	12	
		変化なし	37.7%	24.5%	37.7%	220	21.2%	51.2%	27.6%	217	
	近所の空き家 発生への関心	ある＋ややある	28.1%	33.1%	38.8%	683	19.3%	47.3%	33.3%	672	
		あまりない＋ない	32.3%	28.0%	39.8%	161	19.0%	44.3%	36.7%	158	

※網掛けは平均より大きい比率であることを示す